

演題名：新型コロナウイルス感染症流行に伴う生活習慣の変化(第1報) 年代別の特徴

発表者

桜沢美土里(Midori Sakurazawa)、宗像ゆかり(Yukari Munakata)、多治見公高(Kimitaka Tajimi)、各務竹康(Takeyasu Kakamu)、日高友郎(Tomoo Hidaka)、増石有佑(Yusuke Masuishi)10004598、春日秀朗(Hideaki Kasuga)、遠藤翔太(Shota Endo)、福島哲仁(Tetsuhito Fukushima)

- 1) 郡山市健康振興財団
- 2) 福島県立医科大学衛生学・予防医学講座

第24分科会 新型コロナウイルス感染症

第4分科会 保健行動・健康教育

本文(全角 980 文字以内)

【目的】新型コロナウイルス感染症の流行により、我々の生活習慣は一変した。労働現場においても、リモートワークの推進、会合の自粛等、日常の生活に大きな変化が生じている。このように生じた変化の中、新たな生活様式に合わせた健康管理のあり方が求められている。本研究は、新型コロナウイルス感染症流行前後の生活習慣の変化について年代別の特徴を明らかにし、今後必要とされる健康管理、保健指導のあり方を探ることを目的とした。

【方法】2019年度および2020年度に2年連続して、福島県の一健診機関における定期健康診断を受診した労働者のうち、生活習慣(週あたりの外食回数、週あたりの間食回数、1日あたりの喫煙本数、週あたりの飲酒日数)に関する質問全てに回答した6626人(男性3349人、女性3277人)を対象とした。年齢を2019年度の年齢で20代以下、30代、40代、50代、60代以上に分類した。外食習慣の有無、喫煙習慣の有無、飲酒習慣の有無、毎日の間食習慣の有無について、性、年代別に新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年度と拡大後の2020年度の変化を分析した。

【結果】男性では外食習慣なしの割合は全年代で有意に増加していた。喫煙習慣ありの割合は30代、40代、50代、60代以上で有意に減少していた。飲酒習慣ありの割合は、30代、40代、50代で有意に減少していた。女性では外食習慣なしの割合は全年代で有意に増加していた。間食習慣ありの割合は50代で有意に増加していた。喫煙習慣ありの割合は、20代以下で有意に減少していた。飲酒習慣ありの割合は20代で有意に減少していた。

【考察】男性では多くの年代で飲酒習慣が有意に減少しており、外食回数の減少が飲酒回数の減少につながったと考えられる。一方で女性では20代を除き、飲酒習慣は有意に減少しておらず、多くの世代で外食と飲酒が直接関連していないことが推測される。間食については、女性50代以外の多くの世代でも有意ではないものの、間食習慣が増加していた。喫煙習慣は男女ともに減少していた。新型コロナウイルス感染症流行当初より、喫煙と重症化の関連が示唆されており、禁煙への動機づけとなった可能性が考えられる。この変化した生活習慣が今後も継続するのか、また、この変化が今後の健康状態にどのような影響を与えるのかについて、今後も分析を続けていきたい。